

2016年8月1日

三重県
知事 鈴木 英敬 様

日本野鳥の会三重
代表 平井 正志

四日市足見川メガソーラー予定地についての要望

四日市小林町周辺の山林にメガソーラー計画が進んでおり、条例による環境影響評価が行われています。

四日市から鈴鹿にかけての丘陵地の山林は、高度成長期以降、住宅、ゴルフ場、工場、道路の建設などで細分化され、面積も極端に減っています。これ以上減らすことは、里地里山の生態系を根本的に破壊することになります。

特に今回の計画のように大面積をパネルで覆い、樹木、草地をなくす計画は、生態系にとってきわめて深刻であります。

当該計画予定地では、今年猛禽のサシバの繁殖行動が観察されました。

営巣地は予定地内の山林であり、6月5日以降継続的につがいが観察され、餌運びも確認できました。この地域には、2009年6月13日および2013年5月12日にもサシバが観察されているので、これまでこの地域でサシバが永続的に飛来、繁殖していたものと推定されます。

サシバは全国で減少が著しく、絶滅危惧種（三重県 EN，環境省 VU）に指定されています。現在、県内における繁殖地はごく限られています。

当該計画地は、水田に隣接した山林でサシバの繁殖に良い環境が保たれていません。

また、オオタカ（環境省 NT，三重県 VU）については、6月27日予定地内の山林および足見川沿いの水田で狩りをするつがいが観察されています。

このつがいは、かつて環状線建設予定地に営巣しており、その後営巣場所が移動しているつがいと考えられます。

本年は当該計画予定地周辺で繁殖し、予定地は狩場となっていると推定されます。オオタカは三重県内では低山帯に生息するが、安定した繁殖地はごく少数です。サシバ、オオタカの2種とも繁殖地が少なくなっており、繁殖地を保護すべき鳥類であります。

さらに、7月にはチョウゲンボウがしばしば観察されています。

当該予定地は、かつてアカマツなどの山林とその中に茶畑などの農耕地が点在する典型的な里山であったと思われます。

現在はスギ・ヒノキ植林が多いが、部分的には広葉樹の二次林がある他、林縁にも広葉樹があり、植生の多様性が保たれています。

鳥類の調査は十分にされていないが、サシバが繁殖し、周辺にオオタカの繁殖域があることから、猛禽類を頂点とする里山食物連鎖が維持されていると考えられます。里地里山は、人々の生活の場であると共に動物たちの生息の場でもあり、多くの野鳥たちが繁殖しています。

こうした里山里地の環境を好んで繁殖する種、特に絶滅危惧種であるサシバやオオタカにとっては欠かせないフィールドであり、環境破壊をすべきではありません。四日市、鈴鹿、津周辺は開発が進行し、この種の里地里山が激減しており、これ以上の開発は避けるべきで貴重な生態系を守っていただきたい。

当会はこの生態系を保護したいと考えています。自然環境保全に関し、ややもすると遅れている当県ですが、これを機会に先進的な取り組みを是非推進してください。

要 望

- 1) 当該ソーラー予定地を全面的に里山生態系保全区として保護してください。そのためには予定地におけるソーラー事業は中止すべきとの知事意見を表明し、計画の阻止のために努力していただきたい。
- 2) 里山生態系保全のために、この山林と周辺水田も含め、自然環境保全条例にもとづく、保全地域への指定など積極的保護策を取っていただきたい。
- 3) 自然エネルギー利用が自然環境を破壊しないように、県内全域のゾーニング、地域別総量規制など、有効な措置を取っていただきたい。

以上